

第2回 羽村市まち・ひと・しごと創生計画懇談会 グループディスカッション

2015/07/10 201・202会議室

重点プロジェクト3「はむらで働こう・遊ぼうプロジェクト～はむらの産業ブランドの創出」

グループ	議論内容	懇談会での発表(要約)
田嶋委員、伊藤委員、清水委員、小林委員	<p>・女性が働きたい企業が少ない→女性をターゲットに産業サポート(都心から引き込む)→2とつながって羽村により住みやすいように 羽村の中で何かしたい 個人的にはうごいている ↑行政が加わってより運転しやすくなる 大きくない街で何でもやるのは難しい</p> <p>[遊び] サイクリングステーションが良い 西口の道路整備 景観とのバランス 赤ちゃんのベビーカー→歩きづらい道 ガタガタ 商店の空きをワークショップにつかう</p> <p>・羽村の人口 昼と夜 一緒</p>	<p><女性をターゲットにする。> ・羽村市には女性の働きたい企業が少ない。行政が入り女性が住みやすい街にする仕組みを作るほか、何らかのサポートをする。(女性にわかりやすいものが必要。) ・西口の道路整備。ベビーカーで歩きづらいことも育児をする人には住みにくく、人が離れる原因になる。古き良き街並みとの景観バランスを考えた整備が必要。</p>
大和田副会長、池田委員、高橋委員、山本(哲)委員	<p>はむらではたらく どの市でもやっているコト。ほとんどおなじ→その先 工場 固定資産税 3年0 事業税0とか 産業支援 練馬区 利息ただ。0(ゼロ) ここに本社おく。 新規創業→次にきたい「次の段階 金やってもイイ」 八王子南区、社長が住むまち 住民税安いとか、独自の制度。率ではへっても数でとる、とか。</p> <p>両立 業種しぼっての。 伝統→承継 行政—————企業 入口だけやって。 使われていない場所、有効活用。</p> <p>共通しているのは、この中ではこれ、とウエートをつける。 インフラ ひとつひとつ—補完し合う 大きな単位で。 ダム効果 はむらのせき→立川ダム 人口流出のはどめ</p>	<p>・ものづくりの企業にターゲットを絞って来てもらう。来た企業には何らかの特典を付け、ものづくりの企業に特化し、「いい仕事をする街」というイメージづくりをする。 ・羽村市がダムになって、奥多摩や青梅からの人の流出を止め、「羽村市は住みやすく、子育てが充実している」というイメージの街にする。</p>

第2回 羽村市まち・ひと・しごと創生計画懇談会 グループディスカッション

2015/07/10 201・202会議室

重点プロジェクト3「はむらで働こう・遊ぼうプロジェクト～はむらの産業ブランドの創出」

グループ	議論内容	懇談会での発表(要約)
<p>勝山委員、 寺島委員、 渋谷委員、 羽村委員</p>	<p>産業ブランド ○なぜ「デザイン」という言葉がないのか？ ○デザイン活用 何社か集まって一人のデザイナーを雇用する ○都市のデザイン ○近代化が観光資源をなくしている。 ○北陸新幹線がかっこいい デザイナーはオクヤマ氏 フェラーリ ○補助金が終わると全てが終わる ○海外の有名デザイナー→ロイヤリティ→羽村市で力のあるデザイナーを雇用して市内の企業の行事をやらせてもらう (ロイヤリティ、契約)</p>	<p>・ブランディングにはデザインが不可欠。羽村市の工業団地数社が集まり一人のデザイナーを雇えば、デザインのレベルは上げられる。 ・市役所でデザイナーを雇用し、ロイヤリティで契約を取ることもありではないか。 ・駅周辺を区画整理として、都市のデザインニング、プランニングはできているのか。羽村市の産業ブランドという意味で、都市のブランド、デザインも考えていいのではないか。産業ブランドの創出にはデザイナーを活用した施策が必要。</p>
<p>岡委員、 山本(三)委員、 宇津木委員、 折原委員</p>	<p>・羽村だからできること／わかりやすく、目立つこと ・立川から電車20分(16号) ・観光ビジネス、集客力 (商業)都心から遊びに来れる。 ・サイクリングのメッカ ステーションの整備 コース整備 安全 羽、[ハネ・ハネ ツーリズム] プロジェクト 玉川上水、多摩川のサイクリングコース 羽田-----羽村 60km ・やすめるところ ・シャワースペース ・トイレ 上水公園(プール) ・羽村は公園多い トイレきたない ・人をまねくことをブランド化 (EX)バーベキュー 奥多摩 秋川 ・日曜広場(レクリエーション広場) (バーベキュー) てぶら 通年 ・さくら ・チューリップ ・夏まつり 羽村 ・製造業 ・ITは、もっと地方</p>	<p>・観光ビジネスとしてサイクリングステーションを整備する。多摩川のサイクリングコースは羽田から終点の羽村市までがつながっており、羽村市のサイクリングステーションに休憩所やシャワースペースを整備し、都心から人を招く、あるいは物をブランド化する。羽田から羽村市へといった「羽つながり」として「羽～羽ツーリズムプロジェクト」という名称で取り組み、通年を通じた観光として呼び込めるものがあるといふ。</p>